

いま日本人の死を取り戻そう

東京芸術大学 07, 10, 30

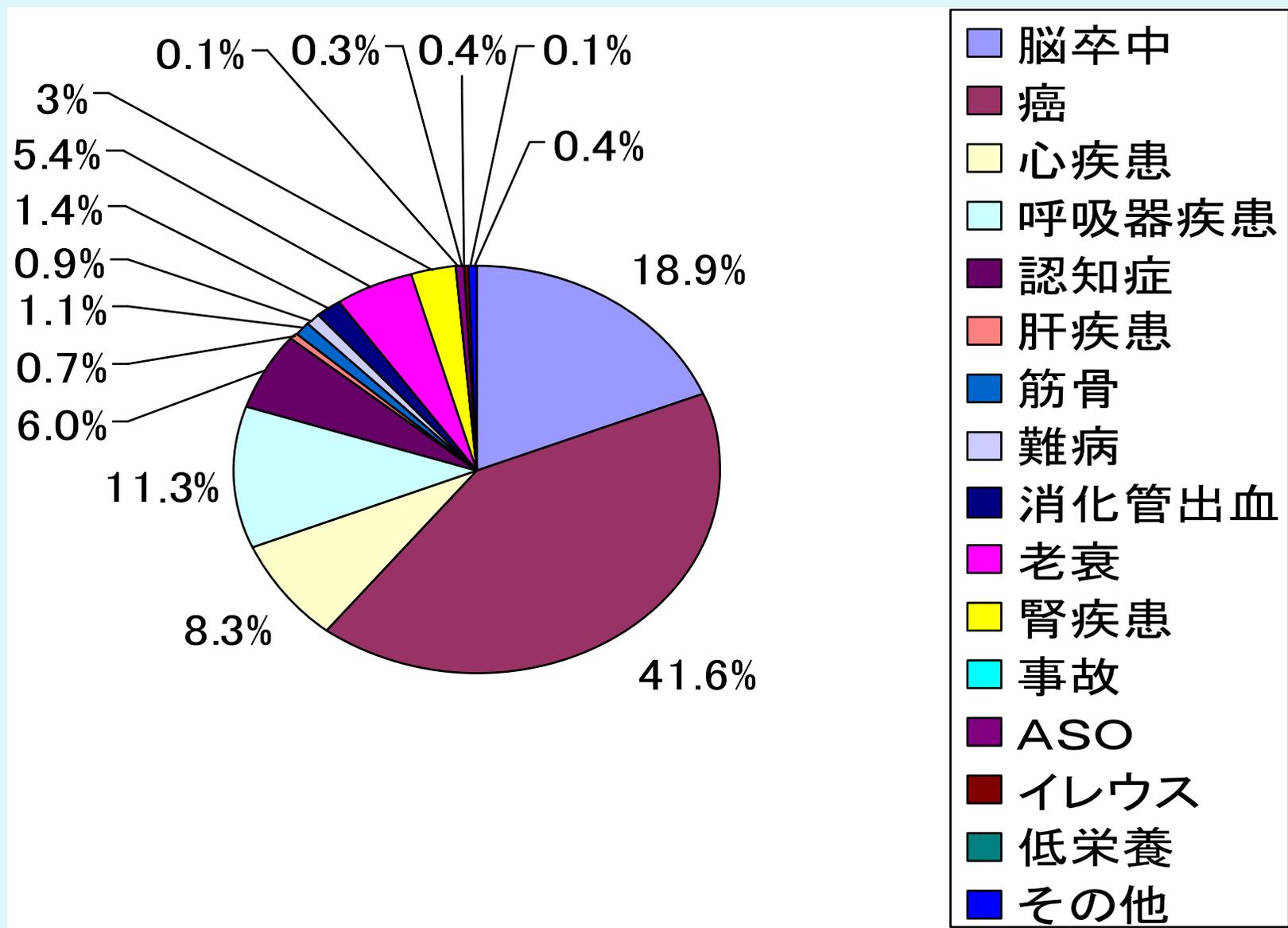
医療法人いばらき会

照沼秀也 (医師)

いばらき会のご案内

- ▶ ホームケアに取り組む医療法人
- ▶ 在宅医療、デイサービス、小規模多機能施設
- ▶ 200人の仲間がいます（医師、看護師、介護士、リハスタッフ、MSW、経営陣—財務、医事課）
- ▶ 病院はありません。
- ▶ 自己紹介 12年病院の医師、11年在宅医
- ▶ 病院（入院施設）診療所（外来、在宅診療）

いばらき診療所における在宅死 (1996~2007.4 計700人)

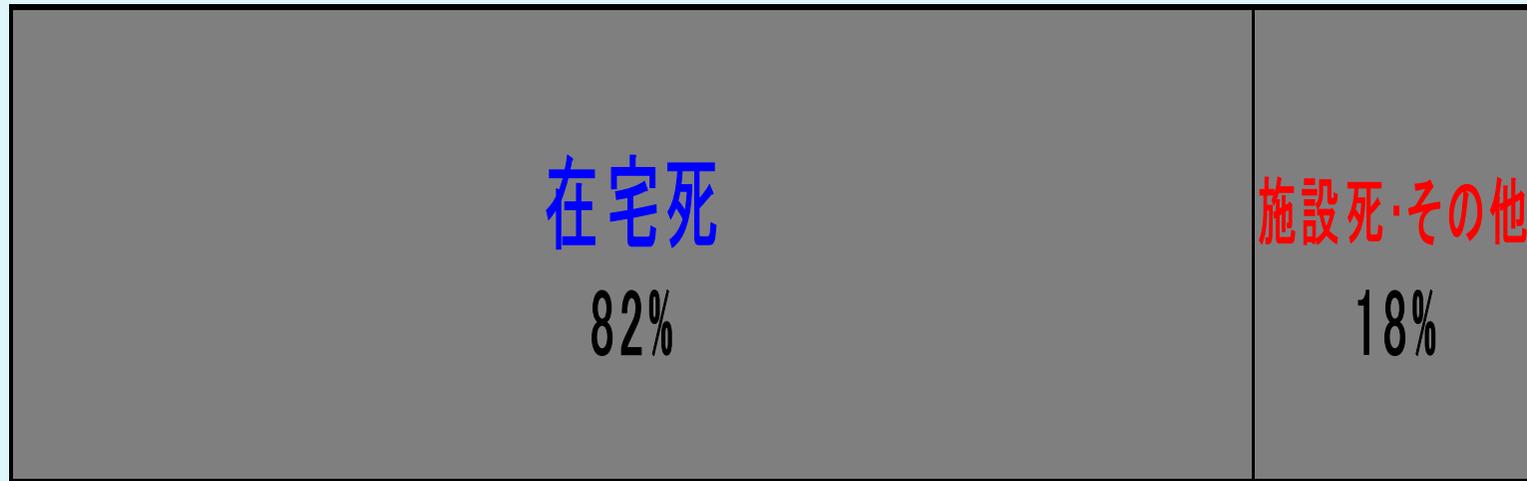


いばらき診療所で亡くなられた方の基礎疾患の内訳です。

死

- ▶ 病院で仕事をしているとき、死は生物的な死（自然死、外因死）この分類だけ
- ▶ 在宅で医療をしていると、死は人間の死、日本人の死（施設死80%，在宅死20%）

いばらき会の在宅患者様における 在宅看取り率(2006,4~12)総数 88



死の臨床

- ▶ 日本では、デーケン先生がリーダー（とても立派で深い考察、論理的分析）
- ▶ 外国にある日本庭園、外国映画に出てくる和服美人

日本人はずっと死を見つめてきた

- ▶ 古墳(お祭り、埴輪, 殉死)、八百万の神
- ▶ 仏教(お寺 現世の苦しみから解放され極楽浄土に住めるようになる)
- ▶ 武士道(生き恥、切腹、みっともない、死の美学)
- ▶ 儒教(お父さん、お母さん大事, 徳の始まりは孝道、親をかなしませるのは大罪)
- ▶ キリスト教(神の存在を信じる)
- ▶ そして今、何も信じれるものはない、死後の世界は限りなく遠い

死

- ▶ 生命体としての死(エネルギーが消える、心停止、呼吸停止(生物学))
- ▶ 人間としての死、日本人の死(超新星、温度はあったかい、静かな空気、)
- ▶ 来世を信じられるか(日本人の来世は遠い)、高橋先生
- ▶ 死に目に会えない、つらい、悲しい
- ▶ 恨み(仇打ち)、殺人、テロ
- ▶ 死の美学(日本的)

気

- ▶ 正気 邪気(うつ、不安、嫉妬、いじめ)
 - ▶ 日本人は気を大事にしてきた(病気、元気、生气、気持ち、気分)
 - ▶ 邪気が入ると目の色が変わる。(表現できれば面白い)
 - ▶ たぶん、気を感性で表現できれば、今の日本人の死が感性で表現できるかもしれない(おもしろそう)
 - ▶ なくなる少し前に邪気が消え、なくなる方のエネルギー(気)が集まったひとに入っていく(正気)、時間の流れを変える。(とっても不思議)
 - ▶ 一緒に時間を過ごせる、亡くなる方からエネルギーをもらえる、澄んだ気持ちになる。
-



人間に特徴的な能力

- ▶ 将来を予見する能力(不安、うつ=邪気)
- ▶ 認知症、アルコールでこの能力が低下すると楽しくなる。
- ▶ 病気、死、の予見(不安、病気は後ろから来る気、日本人の死は来世が遠い)
- ▶ インド人は来世が近い、キリスト教は中間ぐらい、日本人は遠い(表現できればすごい)、高橋先生
- ▶ 動物も自分の死をわかるらしい(犬など)

死ぬことがわかったときどうしたいか

- ▶ 家族と暮らしたい
- ▶ 住み慣れた場所で過ごしたい(自分で作った庭を見ていたい)
- ▶ 愛犬しばと暮らしたい
- ▶ 自分の趣味をやってみたい(歴史サークル)
- ▶ 友人と会いたい
- ▶ 一人でいたい(誰とも会いたくない)
- ▶ 家族に迷惑をかけたくない(女性が多い)ー女性は現実的判断に優れている
- ▶ 延命はしてほしくない
- ▶ これが今、日本人の死の美学？

美術への期待

- ▶ 医療人 最後の時間を一緒に過ごすことはできる、話もうかがえる、表現できない————日本人の死は言葉で表現するとうそが多くなる。高度に文化的、感性的
- ▶ 美術家 今の日本人の不安、死の持つ超新星的能量(気)、時間がゆっくり流れる感じ、を昇華させ表現できる

高度に日本を集約した都市空間

- ▶ 死んでもうちに帰れない。病院からそのまま葬祭場(葬祭ビジネス)、これも現在の日本文化
- ▶ 死が近くになると、欧米に移住(施設)一石の牢屋(あるお年寄りの言葉)
- ▶ 今、日本人の死生観がほしい

